愛知県公立大学法人
２０２２年度業務実績に関する評価結果

令和５年９月

愛知県公立大学法人評価委員会

目　　次

はじめに‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 1

第１　全体評価
　１　評価結果と判断理由‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 2
　（１）評価結果
　（２）判断理由
　　ア　項目別評価
　　イ　評価に当たって考慮した項目
　２　評価に当たっての意見、指摘等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5

第２　項目別評価
　１　業務運営の改善及び効率化に関する項目
　（１）評価結果‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
　（２）業務達成に向けての取組、進捗状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
　　ア　特筆すべき項目[評価Ⅳ]
　　イ　遅れている項目[評価Ⅱ]
　　ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
　（３）評価に当たっての意見、指摘等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7

　２　財務内容の改善に関する項目
　（１）評価結果‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8
　（２）業務達成に向けての取組、進捗状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8
　　ア　特筆すべき項目[評価Ⅳ]
　　イ　遅れている項目[評価Ⅱ]
　　ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
　（３）評価に当たっての意見、指摘等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8

　３　教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目
　（１）評価結果‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9
　（２）業務達成に向けての取組、進捗状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9
　　ア　特筆すべき項目[評価Ⅳ]
　　イ　遅れている項目[評価Ⅱ]
　　ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
　（３）評価に当たっての意見、指摘等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9

４　その他業務運営に関する重要項目
（１）評価結果･･･ 10
（２）業務達成に向けての取組、進捗状況･･････････････････････････････ 10
ア　特筆すべき項目［評価Ⅳ］
イ　遅れている項目［評価Ⅱ］
ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
（３）評価に当たっての意見、指摘等････････････････････････････････ 10

５　教育研究等の質の向上に関する項目
（１）進捗状況の確認結果･･ 11
（２）各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況･････････････････ 12
【県立大学】･･ 12
ア　小項目進捗状況
イ　業務達成に向けての取組、進捗状況
（ア）　特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）
（イ）　遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）
（ウ）　法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目
ウ　進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等
【芸術大学】･･ 14
ア　小項目進捗状況
イ　業務達成に向けての取組、進捗状況
（ア）　特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）
（イ）　遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）
（ウ）　法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目
ウ　進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

＜参考＞
参考資料
○　愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領････････････････ 16
○　愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿･････････････････････････････ 19

はじめに

愛知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第 78 条の２により評価の対象とされている事業年度である2022 年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、法人が中期計画に定めた項目について、下記のとおり評価を行った。

記

評価は、2022 年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

（参考）　中期計画（2019 年度～2024 年度）に定める項目

大 項 目	小項目
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	45(19)
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	9(3)
第3 財務内容の改善に関する目標	2(0)
第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	2(0)
第5 その他業務運営に関する重要目標	4(1)
計	62(23)

※中期目標達成のため法人(大学)の資源を集中し、重点的に取り組む戦略性の高い項目を【重点的計画】としている。( )内は重点的計画数。

第１　全体評価

１　評価結果と判断理由

（１）評価結果

存在感と信頼感のある「地域の重要な教育研究機関として活躍する大学」を目指し、自らの強みや特色を生かした機能強化を図り、地域を支える人材の育成、地域との連携や地域への貢献を推進するために、自治体、他大学、産業界などとの連携の一層の強化に取り組むという中期目標の方向性に沿って

中期計画を順調に実施していると認められる。

（２）判断理由

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、中期計画の進捗状況全体について評価した。

ア　項目別評価

項目別評価結果一覧

評　　価 / 大　　項　　目	S	A	B	C	D	項目別評価の内容
業務運営の改善及び効率化に関する目標		○				６頁
財務内容の改善に関する目標		○				８頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検･評価及び情報の提供に関する目標		○				９頁
その他業務運営に関する重要目標		○				１０頁
教育研究等の質の向上に関する目標	（事業の外形的・客観的な進捗状況）順調に実施していることを確認					１１頁

※　評価基準

- S　特に優れた実績を上げている。
- A　順調に実施している。
- B　おおむね順調に実施している。
- C　十分に実施できていない。
- D　業務の大幅な見直し、改善が必要である。

イ　評価に当たって考慮した項目

中期目標の方向性に沿って実施された２０２２年度の取組について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。なお、遅れている項目はなかった。

※　［　］の中の数字は中期計画の小項目評価の番号

＜特筆すべき（高く評価した）項目＞

【愛 知 県 立 大 学】

〇新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施［１］【重点的計画】

・2022 年度の「県大世界あいち学」においては、全学部連携型授業については指標を上回る３科目、複数学部連携型授業については３科目開講

〇データサイエンス等に関する教育を推進［２］

・ＡＰＵ教養コア科目「データサイエンスへの招待」が、文部科学省から「数理・データサイエンス・ＡＩ教育認定プログラム（リテラシーレベル）」の認定を取得

・2021 年度開講した「データサイエンスへの招待」を発展させた教養教育科目「データサイエンスへの招待－実践編」を新規開講

〇専門教育における効果的な教育カリキュラムの改善［４］

・外国語学部において、「スペイン語圏専攻」の「スペイン語・ポルトガル語圏専攻」への改編を含む、新教育プログラム開講に向けたカリキュラム改革を実施

・看護学部において、文部科学省大学改革推進補助金によりシミュレーター機器を導入し、「看護生活支援演習」についての実践的な看護教育を実施

〇大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し［５］

・国際文化研究科において、「コミュニティ通訳学コース」を開設し、６名の履修者を得るとともに、人間発達学研究科及び看護学研究科と連携した授業運営を実施

〇学部横断型の学際的研究や、産業界等との連携による研究を推進［18］【重点的計画】

・学長特別研究費による公募を実施し、「学部間連携・産学公連携研究」枠に指標を上回る、学内の分野横断的共同研究として１件、他大学や他研究機関との共同研究として３件の合計４件を採択

〇外部資金の獲得に向けた取組の推進［19］【重点的計画】

・大学の研究推進局において、研究所及び研究プロジェクトチームに対する奨学寄附金、受託研究等外部資金の受入れの適否を審査し、受け入れを実施した結果、研究に係る外部資金の採択・受入件数を第二期最終年度から 10.7％増加させ、第三期中期計画期間で初めて指標を達成

・３研究所・１プロジェクトチームが、学内予算の配分を受けることなく運営を実施

〇県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進［22］【重点的計画】

・愛知県教育委員会との連携により「あいちラーニング推進事業」へ協力し、愛知県立昭和高等学校との情報交換、協議による授業改善やＩＣＴ活用に関する連携を実施

・知立市との意見交換及び知立市の課題を聴く会を新たに実施するとともに、同市での教員・学生の教育研究活動を支援する環境を整備するため、包括連携協定を締結（2023 年２月）

・長久手市教育委員会及び日進市教育委員会とスクールソーシャルワーカーの課題に関する意見交換会を実施し、それぞれ連携協定を締結（長久手市：2022 年４月、日進市 2023 年３月）

【愛 知 県 立 芸 術 大 学】

〇アーティスト・イン・レジデンスによる国際的なアーティスト・研究者との交流などを推進 [30]【重点的計画】

・アーティスト・イン・レジデンス事業では、新たな取組として、海外のアーティストからの遠隔指示による「リモート・アーティストインレジデンス（ＡＩＲ）・プロジェクト」を実施するなど、３件の企画を採択し、３名の海外のアーティストを招聘

・外国人客員教員の活動としては、公開授業、芸術講座及び演奏会等を合計４件実施

・アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等については、指標を上回る合計７件実施

〇学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進 [36]【重点的計画】

・キャリアサポートガイダンスについては、対面とオンラインのハイブリット形式で計画的に実施し、指標を上回る 29 件実施

・新たな取組として、全国で約 100 大学 200 チームが参加したマイナビ主催の「ＮＨＫ企画力養成セミナー」に参加し、芸術大学では唯一、本学学生２チームの企画書が佳作に選出

〇教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元 [39]【重点的計画】

・展覧会については、オープンキャンパスや芸大祭等に合わせる等の工夫により、コロナ禍前の 2019 年度を上回る入館者数を実現

・音楽学部では、弦楽器コースの花崎教授プロデュースによる「室内楽の饗宴」シリーズを立ち上げるなど、大学主催の各種演奏会及び教員による演奏会等を開催

・文化財保存修復研究所による芸術講座「『原爆の図』―よみがえる想い」を、愛知県立大学人間の尊厳と平和のための人文社会研究所の協力を得て開催

〇研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組[40]【重点的計画】

・科学研究費助成事業基盤研究Ａに採択された県立大学との連携研究「データサイエンスによる紙の道の解明」を 2022 年４月より開始（2026 年度まで）

・2022 年度は積極的に助成金等を申請し、科学研究費補助金及びその他の助成金への申請を、指標を上回る合計 31 件実施

〇愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進[41]

・国際芸術祭「あいち 2022」については、国際的アーティスト奈良美智氏の呼びかけにより、本学にてプロジェクトチームを作成し、作品発表及びパフォーマンスを「あいち 2022」で出展し、本学の魅力をアピールしたほか、展覧会２件をパートナーシップ事業に採択

・名古屋工業大学と包括的連携に関する協定書を 2022 年 4 月に締結し、「アートフルキャンパス構想」を共創、両大学学生が共同でアート作品を制作するプロジェクトを実施したほか、名古屋工業大学の教職員や学生を対象とした愛知県立芸術大学教員による授業等を実施

【法 人 運 営】

〇様々な連携による大学の魅力づくりの推進［48］【重点的計画】

・愛知県スタートアップ推進課と連携してフランスの高等教育機関から研究者等を招聘し、「スタートアップ国際シンポジウム」を開催したほか、愛知県農業総合試験場と連携して「Ａ－Ａ－Ａ スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリのＤＸ」を開催

・両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家である米国バブソン大学の山川恭弘准教授を招聘し、特別集中授業を実施

・ジブリパークの開園に合わせて、２大学で連携し、リニモ沿線８施設紹介動画を制作して藤が丘駅のデジタルサイネージにて放映し広報を推進

＜遅れている項目＞

なし

２　評価に当たっての意見、指摘等

2022 年度は目標達成に向けた様々な取組を一層進め、中期計画を順調に実施していることは評価できる。

愛知県立大学では、新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による全学部連携型授業や複数学部連携授業をさらに発展させたこと、愛知県立芸術大学では、アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を実施し、国際的なアーティストや研究者との交流を推進したことを特に評価する。

また、業務運営の改善及び効率化に関しては、愛知県スタートアップ推進課や農業総合試験場と連携したスタートアップに関するシンポジウムを開催したことや両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家を招聘した特別集中授業を実施するなど、発展的な起業家育成に関する取組を実施したことを特に評価する。

第三期中期目標期間の４年目となる 2022 年度では、様々な取組を重ねており、今後においても中期目標の達成及び更なる向上を期待する。

第２　項目別評価

１　業務運営の改善及び効率化に関する項目

（１）評価結果

S	特に優れた実績を上げている。（特に認める場合）
A	順調に実施している。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね順調に実施している。（Ⅲ～Ⅳが９割以上）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割未満）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（特に認める場合）

評価区分ごとの項目数		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
重点的計画考慮後の合計		０	０	10	2	１２
評価区分ごとの項目数				8(2)	1(1)	9(3)
内訳	戦略的な法人・大学運営			2(1)	1(1)	3(2)
	教育研究組織の見直し			1		1
	人材の確保・育成			4(1)		4(1)
	事務の効率化・合理化等			1		1

※重点的計画とされている項目は、項目数を２倍にカウントする。（　）内は重点的計画数。

評価区分
Ⅰ　年度計画を実施していない。
Ⅱ　年度計画を十分には実施していない。
Ⅲ　年度計画を十分に実施している。
Ⅳ　年度計画を上回って実施している。

（２）業務達成に向けての取組、進捗状況

ア　特筆すべき項目［評価Ⅳ］

[48]　様々な連携による大学の魅力づくりの推進【重点的計画】

愛知県スタートアップ推進課と連携してフランスの高等教育機関から研究者等を招聘し、「スタートアップ国際シンポジウム」を開催したほか、愛知県農業総合試験場と連携して「Ａ－Ａ－Ａ　スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリのＤＸ」を開催した。

また、両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家である米国バブソン大学の山川恭弘准教授を招聘し、特別集中授業を実施した。

さらに、ジブリパークの開園に合わせて、２大学で連携し、リニモ沿線８施設紹介動画を制作して藤が丘駅のデジタルサイネージにて放映し広報を推進した。

イ　遅れている項目［評価Ⅱ］

な　し

ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な　し

（３）評価に当たっての意見、指摘等

な　し

２　財務内容の改善に関する項目

（１）評価結果

S	特に優れた実績を上げている。（特に認める場合）
A	**順調に実施している。（すべてⅢ～Ⅳ）**
B	おおむね順調に実施している。（Ⅲ～Ⅳが９割以上）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割未満）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（特に認める場合）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
評価区分ごとの項目数	０	０	２	０	２

評価区分
Ⅰ　年度計画を実施していない。
Ⅱ　年度計画を十分には実施していない。
Ⅲ　年度計画を十分に実施している。
Ⅳ　年度計画を上回って実施している。

（２）業務達成に向けての取組、進捗状況

ア　特筆すべき項目［評価Ⅳ］

な　し

イ　遅れている項目［評価Ⅱ］

な　し

ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な　し

（３）評価に当たっての意見、指摘等

な　し

３　教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

（１）評価結果

S	特に優れた実績を上げている。（特に認める場合）
A	順調に実施している。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね順調に実施している。（Ⅲ～Ⅳが９割以上）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割未満）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（特に認める場合）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
評価区分ごとの項目数	０	０	２	０	２

		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
評価区分ごとの項目数				2		2
内訳	評価の活用			1		1
	情報公開等の推進			1		1

評価区分
Ⅰ　年度計画を実施していない。
Ⅱ　年度計画を十分には実施していない。
Ⅲ　年度計画を十分に実施している。
Ⅳ　年度計画を上回って実施している。

（２）業務達成に向けての取組、進捗状況

ア　特筆すべき項目［評価Ⅳ］

な　し

イ　遅れている項目［評価Ⅱ］

な　し

ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な　し

（３）評価に当たっての意見、指摘等

な　し

４　その他業務運営に関する重要項目

（１）評価結果

S	特に優れた実績を上げている。（特に認める場合）
A	順調に実施している。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね順調に実施している。（Ⅲ～Ⅳが９割以上）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割未満）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（特に認める場合）

評価区分ごとの項目数		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
重点的計画考慮後の合計		０	０	５	０	５
評価区分ごとの項目数				4(1)		4(1)
内訳	施設・設備の整備及び安全管理			3(1)		3(1)
	法令遵守			1		1

※重点的計画とされている項目は、項目数を２倍にカウントする。（　）内は重点的計画数。

評価区分
Ⅰ　年度計画を実施していない。
Ⅱ　年度計画を十分には実施していない。
Ⅲ　年度計画を十分に実施している。
Ⅳ　年度計画を上回って実施している。

（２）業務達成に向けての取組、進捗状況

ア　特筆すべき項目［評価Ⅳ］

な　し

イ　遅れている項目［評価Ⅱ］

な　し

ウ　法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な　し

（３）評価に当たっての意見、指摘等

な　し

５　教育研究等の質の向上に関する項目

（１）進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

各大学について、いずれも

順調に実施していることを確認

＊「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

＜参考＞

［各大学別小項目進捗状況］

区　分		教育	研究	地域連携・貢献	その他	合計	重点的計画考慮後の合計	（%）
年度計画を実施していない（Ⅰ）	総合	0	0	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない（Ⅱ）	総合	0	0	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している（Ⅲ）	総合	20(5)	2(0)	5(3)	6(3)	33(11)	44	68.7
	県大	13(2)	2(0)	3(1)	4(2)	22(5)	27	71.1
	芸大	7(3)	0	2(2)	2(1)	11(6)	17	65.4
年度計画を上回って実施している（Ⅳ）	総合	6(3)	4(4)	2(1)	0	12(8)	20	31.3
	県大	4(1)	2(2)	1(1)	0	7(4)	11	28.9
	芸大	2(2)	2(2)	1(0)	0	5(4)	9	34.6
計	総合	26(8)	6(4)	7(4)	6(3)	45(19)	64	100.0
	県大	17(3)	4(2)	4(2)	4(2)	29(9)	38	100.0
	芸大	9(5)	2(2)	3(2)	2(1)	16(10)	26	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を２倍にカウントする。（　）内は重点的計画数。

（２）各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

【 県立大学 】

ア　小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携・貢献	その他	合計	重点的計画考慮後の合計	（%）
年度計画を実施していない（Ⅰ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない（Ⅱ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している（Ⅲ）	13(2)	2(0)	3(1)	4(2)	22(5)	27	71.1
年度計画を上回って実施している（Ⅳ）	4(1)	2(2)	1(1)	0	7(4)	11	28.9
計	17(3)	4(2)	4(2)	4(2)	29(9)	38	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を２倍にカウントする。（　）内は重点的計画数。

イ　業務達成に向けての取組、進捗状況

（ア） 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

［１］　教育：新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施【重点的計画】

新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」においては、１年次必修とした「多文化社会への招待」と「データサイエンスへの招待」を全学部連携型授業として継続して開講した。

また、2022 年度の「県大世界あいち学」においては、全学部連携型授業については指標を上回る３科目、複数学部連携型授業については３科目開講した。

さらに、教養教育科目「人生設計とキャリア」及び「キャリア実践」については、多彩な企業や自治体からゲストや講師を招き、バラエティに富んだ連携授業を実施した。

［２］　教育：データサイエンス等に関する教育を推進

ＡＰＵ教養コア科目「データサイエンスへの招待」が、文部科学省から「数理・データサイエンス・ＡＩ教育認定プログラム（リテラシーレベル）」の認定を取得した。

また、2021 度開講した「データサイエンスへの招待」を発展させた教養教育科目「データサイエンスへの招待－実践編」を新規開講した。

［４］　教育：専門教育における効果的な教育カリキュラムの改善

５学部すべての３ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）について点検を行い、学部・学科間における構成や表現方法の見直し等を行い、見直し後のポリシーをＷｅｂサイトで公開した。

外国語学部において、「スペイン語圏専攻」の「スペイン語・ポルトガル語圏専攻」への改編を含む、新教育プログラム開講に向けたカリキュラム改革を実施した。

看護学部において、「災害看護学」及び「災害看護学演習」の中間評価を行い、授業内容等の改善策を検討するとともに、文部科学省大学改革推進補助金によりシミュレーター機器を導入し、「看護生活支援演習」についての実践的な看護教育を実施した。

［５］　教育：大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し

国際文化研究科において、「コミュニティ通訳学コース」を開設し、６名の履修者を

得るとともに、人間発達学研究科及び看護学研究科と連携した授業運営を実施した。

[18] 研究：学部横断型の学際的研究や、産業界等との連携による研究を推進【重点的計画】

学長特別研究費による公募を実施し、「学部間連携・産学公連携研究」枠に指標を上回る、学内の分野横断的共同研究として１件、他大学や他研究機関との共同研究として３件の合計４件を採択した。

また、産業界・地域社会等と連携した研究を促進するため、「愛県大アカデミックデイ」を開催し、教員研究発表会をオンデマンド形式で配信するとともに、開催後にアンケートを実施し、より効果的な企画のあり方についての検討を行った。

[19] 研究：外部資金の獲得に向けた取組の推進【重点的計画】

大学の研究推進局において、研究所及び研究プロジェクトチームに対する奨学寄附金、受託研究等外部資金の受入れの適否を審査し、受け入れを実施した結果、研究に係る外部資金の採択・受入件数を第二期最終年度から 10.7%増加させ、第三期中期計画期間で初めて指標を達成した。

また、３研究所・１プロジェクトチーム（「ＩＣＴテクノポリス研究所」、「生涯発達研究所」、「”まもるよちいさないのち！”地域災害弱者対策研究所」、「地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト」）が、学内予算の配分を受けることなく運営を行った。

[22] 地域連携・貢献： 県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進【重点的計画】

愛知県教育委員会との連携により「あいちラーニング推進事業」へ協力し、愛知県立昭和高等学校との情報交換、協議による授業改善やＩＣＴ活用に関する連携を行った。

また、知立市との意見交換及び知立市の課題を聴く会を新たに実施するとともに、同市での教員・学生の教育研究活動を支援する環境を整備するため、包括連携協定を締結した（2023 年２月）。

さらに、長久手市教育委員会及び日進市教育委員会とスクールソーシャルワーカーの課題に関する意見交換会を実施し、それぞれ連携協定を締結した（長久手市：2022 年４月、日進市 2023 年３月）。

（イ） 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

なし

（ウ） 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

なし

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

なし

【 芸術大学 】

ア　小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携・貢献	その他	合計	重点的計画考慮後の合計	(%)
年度計画を実施していない（Ⅰ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない（Ⅱ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している（Ⅲ）	7(3)	0	2(2)	2(1)	11(6)	17	65.4
年度計画を上回って実施している（Ⅳ）	2(2)	2(2)	1(0)	0	5(4)	9	34.6
計	9(5)	2(2)	3(2)	2(1)	16(10)	26	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を２倍にカウントする。（　）内は重点的計画数。

イ　業務達成に向けての取組、進捗状況

（ア） 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

[30]　教育：アーティスト・イン・レジデンスによる国際的なアーティスト・研究者との交流などを推進【重点的計画】

アーティスト・イン・レジデンス事業では、新たな取組として、海外のアーティストからの遠隔指示による「リモート・アーティストインレジデンス（ＡＩＲ）・プロジェクト」を実施するなど、３件の企画を採択し、３名の海外のアーティストを招聘した。

また、外国人客員教員の活動としては、公開授業、芸術講座及び演奏会等を合計４件実施した。

なお、アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等については、指標を上回る合計７件実施した。

[36]　教育：学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進【重点的計画】

キャリアサポートガイダンスについては、対面とオンラインのハイブリット形式で計画的に実施し、指標を上回る 29 件実施した。

また、新たな取組として、全国で約 100　大学 200　チームが参加したマイナビ主催の「ＮＨＫ企画力養成セミナー」に参加し、芸術大学では唯一、本学学生２チームの企画書が佳作に選出された。

[39]　研究：教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元 【重点的計画】

展覧会については、オープンキャンパスや芸大祭等に合わせる等の工夫により、コロナ禍前の 2019 年度を上回る入館者数を実現した。

また、音楽学部では、弦楽器コースの花崎教授プロデュースによる「室内楽の饗宴」シリーズを立ち上げるなど、大学主催の各種演奏会及び教員による演奏会等を開催した。

さらに、文化財保存修復研究所による芸術講座「『原爆の図』―よみがえる想い」を、愛知県立大学人間の尊厳と平和のための人文社会研究所の協力を得て開催した。

［40］　研究：研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組【重点的計画】

科学研究費助成事業基盤研究Ａに採択された県立大学との連携研究「データサイ

エンスによる紙の道の解明」を2022年４月より開始した（2026年度まで）。
また、2022年度は積極的に助成金等を申請し、科学研究費補助金及びその他の助成金への申請を、指標を上回る合計31件実施した。

[41] 地域連携・貢献：愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進

国際芸術祭「あいち2022」については、国際的アーティスト奈良美智氏の呼びかけにより、本学にてプロジェクトチームを作成し、作品発表及びパフォーマンスを「あいち2022」で出展し、本学の魅力をアピールしたほか、展覧会２件をパートナーシップ事業に採択した。
また、「あいちアール・ブリュット」については、舞台企画でコンサートを実施したほか、県内の社会福祉施設４か所にて出前コンサートを実施した。
さらに、名古屋工業大学と包括的連携に関する協定書を４月に締結し、「アートフルキャンパス構想」を共創、両大学学生が共同でアート作品を制作するプロジェクトを実施したほか、名古屋工業大学の教職員や学生を対象とした愛知県立芸術大学教員による授業等を実施した。

（イ） 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

な　し

（ウ） 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

[45] 大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実、芸大のブランド・知名度向上

法人自己点検「年度計画を上回って実施している」

→　*評価委員会判断「年度計画を十分に実施している」*

理　由

大学の特色や魅力を発信するため、大学Ｗｅｂサイトの全面リニューアルの実施やジブリパークの開園に合わせてのリニモ沿線の芸大敷地内への大型看板の設置によるＰＲの実施、クラウドファンディングを活用しての地形劇場の観覧席整備を実施したことは評価できる。
しかし、全面リニューアルを実施した大学Ｗｅｂサイト（英語版）において、機械翻訳による誤訳や単語・文法の誤り等が散見されたまま情報発信が行われたことで、結果として芸大のブランドを損なっている。
以上により、**「年度計画を上回って実施している」とまでは言えない。**

ウ　進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

な　し

参考資料

○　愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

１　趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

２　評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

⑴　大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。

⑵　中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。

⑶　評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。

⑷　評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

３　評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施に当たっては、法人が、中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況について、法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し、評価する。

①　項目別評価

評価委員会は、年度計画に定める各項目の達成状況を確認することにより、当該年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア　法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの４段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に、法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評　　価　　基　　準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

イ　評価委員会による法人の自己評価の検証

評価委員会は、中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の４段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ　評価委員会による評価

評価委員会は、小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄランクの５段階で評価する。

なお、法人が中期計画で設定した「重点的計画」については、小項目ごとの評価において項目数を２倍にカウントする。別　紙

ランク	評　価　基　準
S	特に優れた実績を上げている。（評価委員会が特に認める場合）
A	順調に実施している。（全ての小項目がⅢ～Ⅳ）
B	おおむね順調に実施している。 （９割以上がⅢ～Ⅳ、又は、計画の進捗状況や特記事項の記載を総合的に勘案して、評価委員会が「Ｂ」相当と認める場合）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割に満たず、かつ評価委員会が「Ｃ」相当と認める場合）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（評価委員会が特に認める場合）

②　全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

４　報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年６月末日までに評価委員会に提出する。

５　評価結果

⑴　評価結果は、法人に通知する。

⑵　評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。

⑶　評価委員会は、前２項における内容を知事に報告するとともに、公表する。

⑷　知事は、前項の報告を受けたときは、その旨を議会に報告する。

６　評価結果の反映

⑴　評価結果がＢ又はＣランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。

⑵　評価結果がＤランクの項目については、原則として、評価委員会は、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。

別　紙

「重点的計画」を踏まえた評価について

愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領３、①、ウに定める重点的計画に関する評価の具体例

大項目①の中に小項目数が９項目あり、その３項目が「重点的計画」であった場合

大項目①		評価結果	重点的計画を反映した項目数
1	小項目ア【重点的計画】	Ⅲ	2
2	小項目イ	Ⅲ	1
3	小項目ウ【重点的計画】	Ⅳ	2
4	小項目エ	Ⅲ	1
5	小項目オ【重点的計画】	Ⅲ	2
6	小項目カ	Ⅲ	1
7	小項目キ	Ⅲ	1
8	小項目ク	Ⅲ	1
9	小項目ケ	Ⅱ	1
		合計	１２

以下のとおり評価結果が異なることとなる。

	重点的計画を踏まえない場合
小項目数	９
Ⅲ又はⅣの項目数	８
Ⅲ又はⅣの割合	８/９＝８８．９％
大項目の評価結果	ランクＣ 「年度計画を十分に実施できていない。」

⇒

	重点的計画を踏まえた場合
小項目数	１２
Ⅲ又はⅣの項目数	１１
Ⅲ又はⅣの割合	１１/１２＝９１．７％
大項目の評価結果	ランクＢ 「年度計画をおおむね順調に実施している。」

○　愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏　　　名	職　　　　　　　　名
岡田　　亜弥 （委員長）	名古屋大学大学院国際開発研究科研究科長・教授
河辺　　一郎	愛知大学現代中国学部教授
二村 友佳子	公認会計士・税理士 愛知大学監事　名古屋工業大学監事
前田　　健一 （委員長代理）	名古屋工業大学副学長 名古屋工業大学大学院工学研究科教授
山本　　光子	パーソルテンプスタッフ株式会社相談役 名城大学監事

（五十音順、敬称略）